

校務の効率化をめざして

-一步進んだエージェント活用-

Vol.7 令和8年1月26日発行

「校務DX(デジタル・トランスフォーメーション)」をテーマに、「できることから」という視点でコンテンツを提供します。

山口県教育庁教育情報化推進室

AIを身近なパートナーに

1月25日、やまぐちDX推進拠点「Y-BASE」において、第5回「やまぐち高校生ICTコンテスト」が行われました。コンテストでは、山口県内の高校生による、『ICTを用いて暮らしや社会を変革する独創的なアイデア』が多数発表されました。

特筆すべきは、「DXアイデア部門」をはじめ、どの部門においても未来志向の斬新な発表があり、その多くが**生成AIの利用を前提としている**点です。高校生にとってAIは、日常生活や社会課題の解決において、すでに非常に身近な存在となっているようです。

当日発表の様子
【YouTube】

教員に求められる「AIリテラシー」

生徒たちにとってAIはすでに身近なツールとなりつつあり、今後生成AI利活用はより一層進んでいくことが予想されます。

子どもたちがAIを正しく使いこなし、学びを深めていくためには、私たち教員がともに学び、導いていく姿勢が求められます。県教委が策定した「校務における生成AIの利用ガイドライン」や、新たに令和7年12月に策定した「学習における生成AIの利用ガイドライン」なども参考にしながら、まずは教職員自身が生成AIに触れ、利便性と留意点の両面からAIリテラシーを高めていくことが大切です。

教職員自身が生成AIの利活用を通じて**新たな技術に慣れ親しみ**、利便性や懸念点、賢い付き合い方を知つておくことは、**児童生徒の学びをより高度化する**観点からも重要である。

※【出典】初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver2.0)

事例紹介⑤ AIエージェントの活用



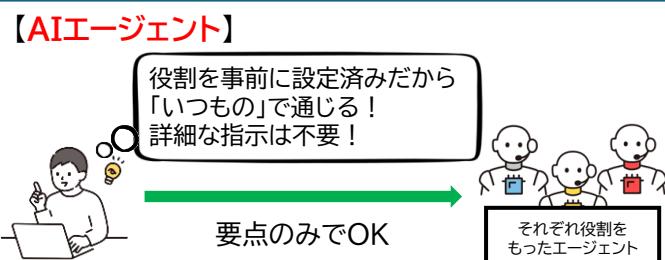
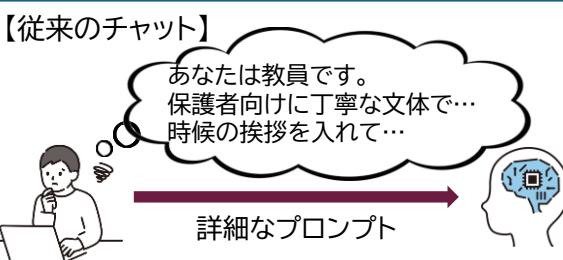
AIエージェントにより、「汎用AI」から「役割を決めた専門パートナー」へ

【AIエージェントとは?】

従来のように生成AIに役割や指示を細かく入力するのに対し、あらかじめ**通知文作成の専門家**や**アンケートの分析**といった特定の役割やルール、出力形式をAIに固定(記憶)させたものです。

毎回細かな指示を入力する手間を省き、プロンプト作成のスキルに左右されることなく、誰もが効率的に業務を行えるようになります。

【AIエージェントのイメージ図】



AIエージェントの作成方法や利活用例を含め、学校でのDXを推進していくための具体的な事例などを、これまでの通信とともに「やまぐちICT新たな学びラボ」に掲載しています。是非ご覧ください!

やまぐち
ICT新たな学びラボ